

地域と協同の 114号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

高齢化社会への対応、団塊世代の当事者として

仲田 伸輝 (地域と協同の研究センター理事)

「地域で人をつなぎ未来をつくる！」をテーマに2月8日に行われた今年の第10回東海交流フォーラムの実践事例報告は、「東濃地域でのおたがいさま発足」(コープぎふ)、「組合員参加の地域づくりをめざすエリア会の活動」(コープみえ)、「地域のみなさんと取り組む移動店舗」(コープあいち)、「よってって横丁づくり」(南医療生協)など、地域での支え合い事業や活動の広がりを示すものでした。

こうした活動が広がる背景のひとつに、高齢者の単身世帯の増加があります。65歳以上の単身世帯は、2010年時点で全国498万世帯と30年前と比較し5.6倍にもなっていることがあげられます。そして、2035年には762万世帯になると推計されています。支え合いの地域づくりが必要な所以です。高齢者の地域での生活を支えるためには生活支援の取り組みに加え、医療や介護などのサービスが欠かせません。加えて、今後40万人もの高齢者が病院や介護施設ではなく在宅での看取りが必要になるといわれています。そのため、団塊の世代が75歳を越える2025年にむけて「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」の五つのサービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の構築が今、国や地方自治体の重要な政策課題になっています。

東海交流フォーラムでの実践報告も、上記の課題のいくつかに応えるものです。私が組合員として関わっている南医療生協の「事業所づくり」でも「自分たちの願いを実現するために、自らが出資し、利用し、運営に参加する」という協同組合の本来の姿が随所にみられます。私が住む名古屋市南区の笠寺地域にも通所介護、ホームヘルプ、宿泊の三つの機能をもつ「小規模多機能ホームもうやいこ」という施設がありますが、この施設も地域の組合員が職員と一緒に空家を探し、お金も人材も日用品も集め、身の丈にあった事業所として2007年に開設されたものです。

「科学は世界がどのようなかを説明するが、世界がどのようなであったら良いのかを考えるのは思想の役割」とはよく言われることですが、私自身、団塊の世代の当事者として「協同組合思想とその原理」を大切に、これからも組合員活動を続けていきたいと思えます。

CONTENTS

巻頭 高齢化社会への対応、団塊世代の当事者として	1
共同購入事業マイスターコース第4期生実践交流会 組合員の声を大事に、組合員の立場にたって考える	2
研究フォーラム職員の仕事を考える 活動報告 コープぎふ飛騨支所児玉支所長にお聞きしました!	3
岐阜地域懇談会 第1回 岐阜のつどい で訪問した 「あば兄イの農小」開校20周年 ...ひとつとなった小学生1500人	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 2月の活動

6日(木) 事務局会議	8日(土) 第10回東海交流フォーラム
10日(月) F職員の仕事を考える世話人会	
11日(火) 生協の未来のあり方研究会	
16日(日) 共同購入事業マイスターコース第7回	
19日(水) 食育講演会コープあいち	
20日(木) 食と農パネル世話人会	
24日(月) 協同の未来塾企画委員会	
25日(火) NEWS114号発送	
26日(水) 三河地域懇談会実行委員会	
27日(木) NEWS編集委員会/常任理事会	
28日(金) とうかい食農健SC学習交流会「学生の食の今」	

《共同購入事業マイスターコース第4期生実践交流会》開催 文責：事務局

『組合員の声を中心に、組合員の立場にたって考える』

—お話を聞きし、1年の実践を交流し、改めてマイスターとしての活動を考えあいました—

今年も、共同購入事業マイスターコースを受講した4期生の実践交流会を、1月11日(土)にC O O P豆味噌でおなじみの野田味噌商店さんで、22名の参加で開催しました。お味噌や五平餅学会などの紹介があり、味噌蔵を見学し、五平餅をつくって、受講後1年間の実践を交流し、改めて共同購入事業のマイスターとして、今後の活動を考え合う、充実した交流会となりました。



《野田味噌商店 野田清衛さんからお話》 (文責：事務局)

「五平餅を扱うようになったのは、行政とタイアップして、食育のためにスタートした。よく考えれば一本の「ほせ」に、おにぎりのようにご飯をにぎり、焼いてたれを付けて食べるというすごく簡単な物です。でも、地域によって、形、味等様々あります。この辺は味噌味ですが、中山間地ではしょうゆがベースになり、ゴマや、クルミが入ってきたり、いろんなミキシングされていきます。それが我々の食文化であったと思います。地域の文化として残ったということ、そこには

人の交流が必ずあったと思います。」

「昔は馬子が馬を引っ張って塩を運んで、海から川を登っていきました。ただ物を持っていったというだけではなく、実はそこで『隣で食った五平餅がうまかったよ』というメッセージが広まり、地域の食文化を形成していったということです。ひょっとしたら地域担当の皆さんの役割は似ているところがあるのではないかと思います。地域のつながりを広げていく役割があるのではないのでしょうか。五平餅を見ていただくと、皆さんの役割が見えてくるような気がします。物を届ける行為に留まらず、何かしらのつながりだとか、こちらのお話を、違うところに繋いでいく役割がある、是非、そういう捉え方をしていただきたいと思います。」



味噌蔵見学 「味噌は作るのではなく育てる」「味噌蔵はかつて特攻隊の兵士が訓練した飛行場の格納庫だった」などのお話を聞きし、味噌玉、味噌桶でできた「たまり」を試食しました。

《1年を振り返って実践の発表》より

「組合員の立場にたったおすすを、意識してがんばってきた。」

「相手のひとことに対して、その背景を探ろうとするようになり、能力がついたと思う。」「担当者ニュースを毎週書くようになり、無人班の組合員さんともコミュニケーションがとれるようになった。」「実践したことは、地域をよく見ようということ。」「マイスターコースを受講する前よりも、一歩進んで話ができるようになった。もっとこうしたらいいと思うことが増えた一年だった。」「マイスターコースを受講して、一番印象に残った講義はホスピタリティのことだった。組合員に意識して聞いて、いい関係で利用いただけている。」「組合員さんの目線に立って考えてきた一年だった。自己紹介カードを置いてきて、共通の話題で話はずんだりしている。」「組合員の立場で考える。声を大事に、自分がされたらうれしいことをしていきたい。」

《「悩みを出し合い、グループで答える」グループワーク》より - 解決への意見



- ① 会えない組合員さんは、配達の時、コミュニケーションがとれない。でも会えないのはこちらの都合なので、工夫したい。
- ② 個配の組合員さんから、ケースにベルトをつけてとか、テープどめをしてとか、ドライ商品を袋に入れて等と、次々要望が出て困ってしまう。でもコミュニケーションで妥協点を探し、納得し合えるところを見つけない。
- ③ 共済とか仲間づくり等の課題を業務中に全部やろうとすると限界がある。どう時間をつくるか。一人ではできないので組織として対応も必要と思うが、組合員とのコミュニケーションを重点にできればと思う。

「研究フォーラム職員の仕事を考える」 パネル活動報告

(文責：事務局)



雪深い コープぎふ飛騨支所 児玉支所長にお聞きしました！

研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会は、「みんなで課題を達成する」ことを大切にしている共同購入事業の支所長・センター長にヒアリングを行っています。昨年8月の大安センターに続き、今回12月11日に、コープぎふの飛騨支所の支所長、児玉幸夫さんに、共同購入事業に関わる支所運営についてお聞きしましたので紹介します。

1. コープぎふ飛騨支所

配達エリアは、高山市飛騨市白川村、岐阜県の2分の1くらいを配達しています。ほぼ山間部の地域で、雪が降り始めていますのでトラックは全部スタッドレスタイヤをつけています。総勢36名の支所で、岐阜の中でも益田について2番目に小さい支所です。



2. マネジメントとして大切にしていること

職員間、働くメンバーのつながりを大切にしています。出庫 - 事務 - 配達 - 組合員さんまでの仕事を、一本につなげて、それぞれに気遣い・配慮し合い、自分の仕事が終わったら、その後について考えられるようになれば、一番いいのではないかと思います。毎週金曜日に、児玉の主観で勝手に「今週のきらりと輝きさん」という賞をつくって、「配慮をしたことでこんないいことあったよ、さん」と書いて、きらりと輝きさん賞(例えば、景品にお菓子の小袋、缶コーヒー本とか)を渡します。「きらり」なので、すごく輝いてなくていいです。こんな事例がありました。ステーションの利用で、組合員さんが牛乳を大量に注文していたので、出庫の職員がすぐ連絡取ったら間違いとわかりました。そこで、配達で事情を話して引き売りをしました。その組合員さんが、「夕方わざわざ事務所に顔を出して「今日はありがとうございました」と言われました。気づいても、見ぬふりをして、組合員さんが夕方取りに来て「困った」と思うのと、「ありがとう」と言うのでは、真逆になります。

3. 動機づけはどのように OCR注文用紙の回収に取り組んで

運営会議はリーダー・副支所長・私と4人でやります。「上から言われたからやれ」みたいな風ではやる気になりません。腹に落ちてないことをやれと言っても成果は出ません。OCR注文用紙の回収率上げる取り組みも、最初は落ちていませんでした。「本当にOCR注文用紙にバツして回収するだけで利用人数増えるのか？」と思い、コープあいちの新城センターに、「なぜ利用人数がこんなに高いの？」と、副支所長が見に行き、「OCR注文用紙の回収率が高いらしい」と実感しました。OCR注文用紙に、注文がなければxをつけてもらい、90%くらい回収されていました。その当時の飛騨支所の回収率は80%前半くらいでした。

そこで、運営会議の中で「やらなきゃ」ということになり、OCR注文用紙を回収することで、担当者と組合員さんとの一対一の関係が生まれ、やり取りの試みが始まりました。その結果、担当者とリーダーの関係が、一緒に考える風が変わってきました。担当の岩見さんは、この取り組みをする前から回収率が突出して高かった(コープぎふの部内報で紹介されました)のですが、彼はOCR注文用紙を入れる袋を揃え、出さなかった人と「今回は、いかがですか？」とやり取りをし、無人班でも用紙が出されていなければ話をするとか、一年かけて関わりを続けてきた結果でした。

4. 担当者の感性をみがきつづけるためには、



担当者日報を毎日出すように働きかけています。出ない人には「あなたのコースの組合員さんの声はどこにいったんでしょうね」と言い続け、最近出されるようになりました。

飛騨地域は、個配ではなくもっと班が伸ばせるのではないかとということも考えています。生協世帯加入率が三割で、年間供給高が13億ぐらい、「困っていることは生協に言えば」というようにはまだなっていません。地域と生協の関わりの中で、できることはいろいろあります。困っている人はたくさんいます。ただ、どこまでできるのかということとは悩みです。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶地域の福祉を 協同の力で</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2014.2 743</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集 地域の福祉を協同の力で お互いの強みを合わせて「あったか地域づくり」</p> <p><仲間たちはいま> 青森保健生協 組織部 福士学さん 佐々木聖さん <防災365日> PART11 地域と防災 地域の共助が命を救う <宅配・現場レポート> おおさかパルコープ 配送業務の標準化による荷降ろし忘れの削減</p> <p><突撃★あなたの街の組合員活動 ほっとスペース ハピコブ <生協の店づくり最前線> 生協コープかごしま コープ国分店 <ボからは商品探偵団> ズラリ揃った 炭火やきとり〈タイ産〉シリーズ <つながろうCO・OPアクション情報> コープしが 京都生協 富山県生協 <食品のはてな?BOX今月のテーマ> 「お菓子」 <明日のくらしささえあう COOP共済> ララコープ <林家たい平 笑顔が見たくてこの仕事> 其の十一 <CO・OPニュースフラッシュ> コープぎふ いばらきコープ <思わず話したくなる!生協の基礎知識> 第11回 [生協の大運動編③] <この人に聞きたい> ダンサー・振付家 近藤良平さん <もっと知りたい! CO・OP商品> 広島産 ふっくら大粒 かきフライ</p>	<p>2014年 2月 A4版 39頁 定価 350~円</p>
<p>▶オトナなんでも相談室 子どもにたずねよ!</p> <hr/> <p>はじめる!人がつながる 社会が変わる のんびる</p> <p>2014.1 No.87</p> <p>パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>【特集】 オトナなんでも相談室 子どもにたずねよ!</p> <p>* TPPのいいところ、悪いところを知ろう 新潟県阿賀野市立神山小学校5年生</p> <p>* 「原発」って必要なのかな? 北海道松前町立小島小学校6年生</p> <p>* 大学生に聞いた、未来の担い手にとっての介護 社会福祉専攻大学生</p> <p>インタビュー 子どもの意見表明は未来への布石 「あきらめないで考え続けてね」と伝えよう 特定非営利活動法人せたがや子育てネット 代表 松田妙子さん</p> <p>対談 それも多様な生き方のひとつ 家族として”不登校”ひきこもり“をそばでみてきて</p> <p>内山節 里山から考える 第50回 高齢者が多様な仕事に就ける社会 老いについて(5)</p> <p>色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」 第23回 フィリピンの医療支援にご協力を</p> <p>特別企画 多様な生き物と共に生きる世界農業遺産、トキが舞う佐渡の里山 のんびる編集長 前田和男</p>	<p>2014年 2月 B5版 51頁 定価 315円</p>
<p>▶現代日本の住宅事情</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2014.2 457</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 宅配事業と利用者の意識 蓮見音彦</p> <p>▶特集 現代日本の住宅事情</p> <p>脱成長社会の住宅政策について 平山洋介 理念なき住宅政策と居住格差のゆくえ 本間義人 住宅政策の「貧困」がもたらす「新しい貧困」の形 大西進 住宅セーフティネットにおける公営住宅の役割 坂東美智子 ひとり親の住まいに求められるケアという機能 葛西リサ 不動産業者主導の住宅ローンプランニングに潜む危険性 深田晶恵 コラム1 仮設住宅居住者のおかれている状況 糟谷佐紀 コラム2 プライバシーとコミュニケーションのある安心住宅 上野勝代 コラム3 80年代、90年代の住宅生協の監査で思ったこと 岡本好廣</p> <p>■ 研究と調査 移動販売車のデータ分析から見えてきた高齢過疎マーケットの本質 川崎正隆</p>	<p>2014年 2月 88頁 B5版</p>

	<p>■ 海外情報 英国・コープ銀行で何が起きていたのか? 藤井晴夫</p> <p>■ 新刊紹介 小池修二『地方が輝くために創造と革新に向けての地域戦略15章』 小熊竹彦 平山洋介/斉藤浩編 『住まいを再生する東北復興の政策・制度論』 山崎由希子</p>	
<p>▶次代の農とくらしを支えるJAの経営基盤強化</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2014.2 708</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 次代の農とくらしを支えるJAの経営基盤強化</p> <p>① 経営管理の高度化によるJA基盤強化に向けて JA全中経営対策部</p> <p>② 「人が育つ経営」をめざして -「JAグループ人づくりビジョン」の実践 JA全中教育部 中原淳 童門冬二</p> <p>③ あらためてマネジメント、職場をとらえなおす ・きずな春秋 -協同のこころ- 童門冬二</p> <p>・ミノールからこんにちは / JAグループの共通コンテンツ</p> <p>・協同の実践に学ぶ 先人の言葉・原田睦民 白石正彦</p> <p>・直言・JAへのメッセージ 都会の人は「農」に飢えている 岸本葉子</p> <p>・協同組合の広場 日本生協連、JF全漁連、全森連、生活クラブ連合会</p> <p>・次代へつなぐ地域社会のために 支店を拠点とする組合員主体のJA運営 ~JA横浜の取り組み 西井賢悟</p> <p>・展望 JAの進むべき道 もっと雑談しませんか 谷口肇</p> <p>・地方紙ニュース 第35回「あきたこまち」デビュー30周年の年に 伊藤毅 (秋田魁新報社)</p> <p>・海外だより [DC通信] 33 オバマ政権とTPP 古林秀峰</p> <p>・協同の力で農業と地域を豊かに 直売所から始まる就農・生産支援 ~清川ふるさと物産館夢市場 (大分県豊後大野市) 青山浩子</p> <p><次代へつなぐ協同実践塾></p> <p>・持続可能な農業の実現 今後のJAグループの再生可能エネルギーの利活用推進の取り組み JA全中営農・JA農地総合対策部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 JA健康寿命100歳プロジェクトに関する最新情報 JA全中くらしの活動推進部</p> <p>・10年後JAが存続するために 経営基盤強化に向けた戦略的計画の策定 ② JA全中経営対策本部</p> <p>・月刊JA版 大地の絆通信 第38回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール (内閣総理大臣賞ほか)入選作品を表彰 JA全中広報部</p>	<p>2014年 1月 A4版 64頁 年間購読料 4,800 円(送料込)</p>
<p>▶お任せでいいのかわ 社会保障・ 税一体改革</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2014.2 407</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 お任せでいいのかわ - 社会保障・税一体改革</p> <p>社会保障・税一体改革と地域の互助の可能性 駒村康平 (慶応義塾大学)</p> <p>3党合意の位置づけと意義 長妻昭 (衆議院議員)</p> <p>戦後の社会保障制度の変遷と今後のあるべき姿 小林幸治(市民がつくる政策調査会)</p> <p>介護保険制度改定/現場からの声 大谷和子、香丸真理子 (アビリティクラブたすけあい)</p> <p>子ども・子育て支援新制度-期待と課題を展望する 奥山千鶴子 (子育てひろば全国連絡協議会)</p> <p>年金制度改革の課題 - 女性と就労支援の視点から 小島茂 (連合総研)</p> <p>地域包括ケアシステムが地域の医療職に及ぼす影響と必要な支援 成田光江 (国際医療福祉大学)</p> <p>座談会:社会保障制度の転換を前にして 石毛鏡子 (市民福祉サポートセンター) 菅原敏夫 (地方自治総合研究所) 荻原妙子 (生活クラブ生協神奈川)</p> <p>福島県民健康管理調査は「健康に関する権利」を保障するのか? 第3回 (最終回) 三木由希子 (情報公開クリアリングハウス)</p> <p>ドキュメンタリー映画『笹の墓標』監督インタビュー 東アジアの真の和解と未来を創る意思 影山あさ子 藤本幸久 (映画監督)</p>	<p>2014年 2月 B5版 64頁 頒価500円</p>

<p>▶リトル・コミュニティの社会経済学</p> <hr/> <p>くらしと協同</p> <p>2013. 冬号 7</p> <p>くらしと協同の研究所</p>	<p>リトルコミュニティを支える人々 巻頭言 都市において農業を行う意義はどこにあるのか? 特集 リトル・コミュニティの社会経済学</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リトルコミュニティの経済 ～沖縄の離島と自立 ●共同店を中心にしたコミュニティのあり方 ●まちづくり、健康づくり 絆づくりも含めた総合的・包括的医療へ ～離島の利点を活かす奄美医療生活協同組合～ ●食と農をつなぐ取り組みからみるリトル・コミュニティ ～生活協同組合「熊本いのちと土を考える会」の活動から～ ●小さなエネルギー革命 ～協同組合による小水力発電を訪ねて～ <p>争論 地域の雇用を協同組合が守れるのか、つくれるのか? 非営利組織・協同組合への期待と不安 歴史と海外の経験から見る「協同労働」の意味</p> <p>くらしと協同の本 『里山資本主義』 藻谷浩介 著 『農業を買い支える仕組み』 辻村英之 編 『幸せに暮らす集落』 ジェフリ・S・アイリッシュ 著</p>	<p>加賀美太記 菊地俊夫</p> <p>石原修 山野薫</p> <p>青木美沙</p> <p>片上敏喜 杉本貴志</p> <p>竹信三恵子 中川雄一郎</p> <p>高田晋史 北川太一 熊崎辰広</p> <p>2013年 冬号 B5版 68頁</p>
<p>▶農村と都市を結ぶ地域づくり</p> <hr/> <p>協同の発見</p> <p>2013.12 254</p> <p>一般社団法人 協同総合研究所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■巻頭言 農村と都市の連携における「協同」の今日的意義と課題 横山英信(岩手大学教授) ■特集 農村と都市を結ぶ地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ・若者の農業・農村へのまなざしこそ希望 千賀裕太郎(東京農工大名誉教授) ・風と土と生業と 小橋暢之(花信風舎主人) ・銀座ミツバチプロジェクトの実践 ～地域間交流からの物語づくり&仕組みづくり～ 大越貴之(NPO法人銀座ミツバチプロジェクト監事兼都市農村交流担当地域活性化コーディネーター) ・グランドワーク三島の地域協同による農業用水路の再生活活用活動 渡辺豊博(NPO法人グランドワーク三島専務理事) ・『菜の花が世界を救う』に夢を託して」PART II いよいよ、次なる展開を迎える千葉・北総地域での可能性 ～地球資源循環システムの構築&総合福祉拠点づくり～ 富田孝好(日本労協連理事/一般社団法人日本社会連帯機構事務局長) ・野田村とともに ～野田村の福祉の担い手として～ 高野和子(NPO法人ワーカーズコープ東北事業本部 八戸・階上地域福祉事業部) ■連載 <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギー・協同組合方式の探求① 日本の小水力発電をめぐる現在と課題 藤本穰彦(九州大学大学院工学研究院環境社会部門 特任助教) 島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院環境社会部門 教授) ・欧米諸国の現代協同組合法の比較研究 フランス労働者生産協同組合の規定に関する法律 (労働者協同組合法/2013年版)(2) 島村博(協同労働法制化市民会議 日本労協連法制化対策本部 協同総研主任研究員) ・平成25年度 社会福祉推進事業 研究報告① フォーラム 自立を考える ～誰もが働けるまちづくりを目指して～ 「自立支援プログラム事業の取り組みから見える地域効果について」 櫛部武俊(一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表) ■労協連だより 田嶋康利 ■研究所だより・活動だより 榎本木綿 	<p>2013年 12月 B5版 64頁 定価 1,300円</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

＜福島をわすれない3.11 お話+キャンドル・ナイト＞

木田せつ子さんのお話 & 映画「木田さんと原発、そして日本」上映会

●2014年3月11日(火)13:00~17:30

●会場:名古屋YWCA 2F ビッグスペース(地下鉄「栄」駅5番出口より東へ5分)

参加費500円(県外避難者無料*キャンドルナイトのみ参加の場合、参加費は不要)

13:00~ 開場 & 「パネル展示」開始

13:15~ドキュメンタリー映画『木田さんと原発、そして日本』上映

14:30~ 東日本大震災3周年犠牲者追悼式@久屋広場

14:46 黙とう (@久屋広場&YWCA)

15:30~ 木田せつ子さんのお話

18:00頃~@久屋広場 キャンドル・ナイト(任意)

【主催】NPO法人チェルノブイリ救援・中部(tel:052-732-7172)

未来につなげる・東海ネット(tel:050-3500-2887)⇒http://tokainet.wordpress.com/2014/02/03/20140311/

木田節子さん:岩手県釜石市生まれ。福島県富岡町で福島第一原発事故に会い、茨城県水戸市に避難中。原発労働者の母として脱原発を訴えて全国を行脚。2013年7月の参議院議員選挙に緑の党から立候補。共著に「原発事故と被曝労働」(三一書房)

先月号でお知らせしました【生協総研賞・第10回助成事業論文報告会 2014年2月8日(土)

主催:公益財団法人 生協総合研究所]...大雪のため中止になりました。⇒http://www.ccij.jp/

書籍案内

憲法と、生きる 東京新聞社会部編

出版:岩波書店 体裁:四六判・並製・214頁

定価:本体 1,800円 + 税 発行日:2013年12月25日



内容

憲法は戦後の「平和」を保障し、「人権」の実現を求める人々を支えてきた。安倍政権のもとで改憲への準備が進められているが、いま必要なのは、憲法を変えることではなく、憲法を十全に生かすことではないか。「沖縄」や「福島」など、憲法の光が十分に届かず、犠牲を強いられてきた地域も大きく取り上げ、人々の憲法への思いを徹底取材した大反響連載「憲法と、」を単行本化。

目次

- はじめに
- 第一章 1950年代の攻防
- 第二章 救われた人生
- 第三章 沖縄の怒り
- 第四章 九条の21世紀
- 第五章 不戦のとりで
- 第六章 福島の希望
- おわりに

岩波書店ホームページより

2014年2月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター 3月の活動予定

1日(土) F職員の仕事を考える センター長ヒアリング

6日(木) 組合員理事セミナー

7日(金) 寄付講義準備会第2回

13日(木) 岐阜地域懇談会世話人会/環境パネル世話人会

15日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/理事会

18日(火) 暮らしを語りあう会

20日(木) F職員の仕事を考える世話人会

24日(月) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会

28日(金)・29日(土) 協同の未来塾 第1回

30日(日) 第9回生協職員の仕事を語る会

—私の暮らしの中の生協商品4